

会議議事摘録

| | |
|--------------|---|
| 会議名 | 平成 30 年度第 3 回学校関係者評価委員会 |
| 開催日時 | 平成 31 年 3 月 24 日 (日曜日) 10 : 00 ~ 12 : 00 |
| 場所 | 本校 603 教室 |
| 出席者 (敬称略) | <p>① 委員 : 伊藤雄子(保護者)、佐藤文雄(高等学校関係者)、野間弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者)、赤塚敦子(看護関連業界関係者) (計 7 名)</p> <p>② 学校 : 橋本正樹(校長)、宮下明久(事務局長)、小田真理子(字幕制作・速記者養成科学科長)、吉川香(医療秘書科学科長・医師事務技術専攻科長)、村山由美(医療秘書科副学科長)、黒田潔(医療マネジメント科学科長・診療情報管理専攻科長)、三宅かおり(医療マネジメント科副学科長・教務委員長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子(介護福祉科学科長)、宮嶋貴与(鍼灸医療科学科長)、伊東由美(看護科副学科長)、(計 11 名)</p> <p>③ 事務局 : 松本晋圭、川内靖美、(計 2 名)</p> <p>(参加者合計 19 名)</p> |
| 欠席者 | 樋本慶(薬・調剤事務関連業界関係者)、前田律子(看護科担当副校長兼学科長) |
| 配付資料 | <p>①事前送付 :</p> <p>□資料 1 : 平成 30 年度第 2 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 2 : 平成 30 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告(別添 A : 平成 30 年度卒業式・修了式資料、別添 B : 平成 30 年度教員研修計画・実績、別添 C : A O 入試入学予定者への入学前指導プログラム(スクーリング)、別添 D : 平成 30 年度後期授業アンケート集計結果、別添 E : 平成 30 年度学校生活に関する調査・挨拶に関するアンケート集計結果</p> <p>□資料 3 : 平成 30 年度重点目標の取組状況報告</p> <p>□資料 4 : 平成 29 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組状況報告</p> <p>②当日配付 : 教育研究 2018 第 36 号</p> |
| 議題等 | <p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、3 月 14 日に卒業式が行われ、6 学科 1 専攻科、合わせて 370 名の卒業生・修了生を無事送り出すことができた。高等教育が変わり目の時期にある中、委員の皆様方には先を見る目をご示唆賜りたい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認(説明者:保坂委員長)</p> <p>前回議事録(資料 1)について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に意義なく確認、了承された。</p> <p>3. 経過報告(説明者:宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局松本)</p> <p>平成 30 年度第 2 回委員会以降の主な経過について、各担当より資料 2 に基づき報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p> |

4. 平成 30 年度重点目標の取組状況報告（説明者：橋本校長）

橋本校長より、資料 3 に基づき今年度の 3 つの重点目標（① T P C の育成と強化、② 学び直しの教育プログラムの開発、③ ビジョンの共有とアクションプログラムの策定）年度末点検結果についての報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 平成 29 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の年度末点検報告について

ページ毎に質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 意見交換など

時間の都合により割愛された。

7. 平成 31 年度の委員委嘱について

事務局松本より、平成 31 年度の委員委嘱について説明があり、確認、了承された。

8. 次回日程、その他

事務局松本より、次回は 7 月中を予定している、日程調整に協力を賜りたい、テーマは以下のとおりとの事務連絡が行われた。

- ①平成 30 年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組みの進め方の説明
- ②平成 30 年度活動の自己点検・自己評価結果（点検大項目）の報告
- ③2019 年度重点目標の説明

最後に、今回をもって退任する委員からの挨拶があり、その後保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、閉会した。

以上

別紙

平成 30 年度第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

3. 経過報告について

○平成 30 年度第 2 回委員会以降の主な経過について、宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局松本より資料 2（別添 A～E）に基づき、以下の報告が行われた。

1. 学生の状況関連

(1) 卒業関連

- ・ 3/7（木）卒業・修了判定会議
- ・ 3/14（木）平成 30 年度卒業式・修了式（別紙 A 参照）

(2) 退学関連

- ・ 個人情報削除した上で「退学者・学籍異動の記録」と「退学防止の事例記録」を学内ネットに掲載して役立っている。
- ・ 科目毎の欠席届を担当に提出することで欠席情報を把握している。
- ・ 学生委員会を中心に以下の活動を進めている。

前期：夏休みの前と後に 1 年生担任に対して退学の意向申出者への対応経過について調査し、夏休み明けの担任からの連絡、学生委員会からの G メールによる保健室・学生相談コーナー利用促進などの対策を進めた。

後期：前期と同様の調査を 12 月及び 1 月に実施して対策を進めた。調査結果を学科長会で報告、学科にフィードバックした。

- ・ AO 入試による入学予定者に対する入学前指導プログラムを行っている。

2. 学生募集関連

| | 看護科を除く学科 | 看護科 |
|-----|---|--|
| 既実施 | 10/13(土)、11/10(土)、11/24(土)、12/15(土) 1/19(土)、2/9(土)、3/2(土)、3/23(土) 指定校、推薦、ワセダ奨学生、AO、外国人、一般 | 10/28(日)指定校・公募推薦 社会人・キャリア 11/24(土) 一般Ⅰ期：1次 11/24(土)、2次 12/8(土) 一般Ⅱ期：1次 2/3(日)、2次 2/9(土) |

3. 教務委員会関連

- ・ 総合病院にて医師事務作業補助者の実務を見学した。教員のほかに事務局からの参加もあり、有意義な見学会となった。
- ・ 3 月実施の研修は午前と午後に分かれて受講した。
- ・ 外部研修受講件数は前年度比 120%、3 年前の約 3 倍となった。
- ・ 3 月実施の入学前指導プログラムは、今年度、看護科の公募推薦入試合格者が加わった。

4. アンケート関連

(1) 平成30年度の実施状況

| | 授業アンケート | | 学校生活に関する調査 |
|----|------------------|-----------------|-------------------|
| 期間 | 前期：6/18(月)～22(金) | 後期：12/3(月)～7(金) | 12/3(月)～14(金) |
| 対象 | ・ 全学科 | | |
| 質問 | ・ 平成 29 年度改訂版 | | ・ 平成 29 年度改訂版 |
| 実施 | ・ 前期科目及び通年科目 | ・ 後期科目及び通年科目 | ・ 挨拶に関するアンケートを併せて |

| | | | |
|------|-------------------|------------------------------|-----------------------|
| 科目 | ・306 科目 7, 198 回答 | ・280 科目 6, 867 回答 (別紙D参照) | 実施 ・591 回答 (別紙E参照) |
| 結果報告 | ・7/2～科目担当者に手渡し | ・12/17～科目担当者に手渡し | ・平成31年4月学科教員会 |
| 公表 | ・内部：平成30年10月 | ・内部：平成31年5月 ・外部：平成31年5月 | ・内部：平成31年5月 |

5. 職業実践専門課程関連

(1) 教育課程編成委員会の開催

| | 医療事務分野教育課程編成委員会 | 福祉分野教育課程編成委員会 |
|-------|---|---------------|
| 対象学科 | 医療秘書科、医療マネジメント科 (診療情報管理専攻科、医師事務技術専攻科) | 介護福祉科 |
| 第2回 | 2/21 (木) | 2/20 (水) |
| 主なテーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の教育活動と学科運営に関する報告 ・平成30年度の教員研修に関する報告 ・カリキュラム等意見交換、他 | |

6. 平成30年度活動の自己点検・自己評価関連

| 報告資料名 | 記述者 | 参照 |
|---|-----|--------------|
| 平成30年度の重点目標と達成するための計画・方法 (年度末点検報告) | 校長 | 資料3 |
| 平成29年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方 (年度末点検報告) | 各担当 | 資料4 |
| 平成30年度活動の自己点検・自己評価報告書 (点検中項目) | 各担当 | 次回委員会 に報告 |
| 平成30年度活動の自己評価報告書 (点検大項目) | 事務局 | |
| 平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方 | 各担当 | |
| 平成31年度の重点目標と達成するための計画・方法 | 校長 | |

7. その他

○卒業関連について、宮下事務局長より以下の補足が行われた。

- ・医療マネジメント科で3月31日付の卒業予定者がいる。
- ・医事系学科において、大学の附属病院への内定者が増えた。

○教務委員会については、三宅教務委員長より以下の補足が行われた。

- ・3月に実施した医師事務作業補助者の見学会は、教員のほかに事務職員も参加した。

○アンケート関連について、事務局松本より以下の補足が行われた。

- ・前回委員会において、委員より、1つの質問項目に2つの質問が入っているとのご指摘をいただいた件については、アンケートの定期改定が2020年度となるため、次年度4月から委員会で精査することになっている。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 学生の状況について

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|--|----------------------------------|
| □学事報告に看護科H31. 3男性卒業とあるが、男性看護師の需要は多いのか。 | □昔に比べると領域に関係なく男性看護師の需要が拡大してきている。 |

| | |
|-------------------|--------------------------|
| □出願者の留学生の出身国はどこか。 | □中国、韓国、ベトナム、モンゴルの4カ国である。 |
|-------------------|--------------------------|

4. 平成30年度重点目標の取組状況報告

○橋本校長より資料3に基づき以下の説明が行われた。

①TPCの育成と強化

- ・TPCの育成と強化は2-40プロジェクトの中で示したものだが、人生100年時代で定年が延びていく時代になったため、今後は2-40という表現はなるべく使わないことを検討したい。TPC育成・強化に関しては、授業公開が兼任講師にも広がり、教員間での共有が徐々に図られている。学科ごとの取組みについては、各学科の年度末点検で点検・評価され、学校内部に公開している。学校行事面では学生の企画で学園祭を進め、教科指導面はアクティブラーニングの手法を導入している。入学前オリエンテーションにはA0入試による入学者以外に看護科の公募推薦入学の学生も加わった。医療事務系学科は、医師の働き方改革に伴うタスクシフトによって、医師事務作業補助者等、事務職の仕事が変わってきているため、実習を含む教育計画の流れを見直した。

②学び直しの教育プログラムの開発

- ・社会人に向けた講座を企画した。

③ビジョンの共有とアクションプランの策定

- ・今年度は校長室が「募集広報協議会」と「進路指導協議会」を運営してきたが、事務局と教員の協調体制がある程度確立したので、次年度は広報室とキャリアサポートセンターそれぞれが中心になって運営する。外部研修はよい流れができています。今後は受講した教職員が学校内で受講内容を報告する仕組みづくりを進めていきたい。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|--|---|
| □看護科は、学生生活に関するアンケートの体育祭や学園祭の評価が他の学科に比べて低い。これについてはどのような現状か。 | □看護科は実習等もあり、計画の段階から参加できない学生もいる。全員参加にしたいが現状は厳しい。 |

5. 平成29年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組みの年度末点検報告について

○保坂委員長から、資料4についてページ毎に項目順の質疑応答で進め、補足があれば適宜説明をいただく形で進める旨の説明が行われ、年度末点検記述について質疑を行った。

○委員からの質問、意見と回答は次のとおり。

教員研修

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|--|---------------------------|
| □外部研修の内容が多岐にわたっているが、研修のプログラムはどのようにチョイスしているか。 | □本校のウイークポイントを中心にチョイスしている。 |

| | |
|---|--|
| <p><input type="checkbox"/>総合病院の見学について具体的な補足はあるか。</p> <p><input type="checkbox"/>医師事務作業補助の業務内容は、病院の規模、システムの状況によって違うところがあるので、いろいろなところを数多く見学するとよいと思う。</p> <p><input type="checkbox"/>医療マネジメント科は診療情報管理室の見学を検討しているということだが、この点はどうなっているか。</p> <p><input type="checkbox"/>看護科の国家試験の結果は出ているか。</p> | <p><input type="checkbox"/>現状を知り連携をとるために医事系教員を中心として見学を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/>医師事務作業補助者から医師へ歩み寄れば、いろいろな仕事が出てくる。それを整理していくことが必要になるが、まずはいろいろなところを見学して連携を進めていきたいと思っている。</p> <p><input type="checkbox"/>関連団体の方に講演の講師を依頼し、情報収集している。今年度までは診療情報管理室の見学をしていないが、ある病院の方から見学可能という話があったため、見学を検討している。</p> <p><input type="checkbox"/>29名受験し、2名が不合格である。</p> |
|---|--|

外部意見の反映

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|--|--|
| <p><input type="checkbox"/>医療秘書科が5月に卒業生懇談会を実施したとあるが、どのような話題が出たのか、状況をお知らせいただきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>卒業生には学校から依頼しているのか。</p> <p><input type="checkbox"/>今後は障害のことや医療のことがある程度わかる人材が求められる。障害の制度や若年障害の特性を授業に取り込んでいくと評価につながるのではないかと。特別講座の試みは続けていただきたい。</p> | <p><input type="checkbox"/>今回は卒業後1年ぐらゐの卒業生が多く、在校時の就職活動や実習など身近な話を中心に高い効果を得られたと感じている。我々には、複数の職種を経験している卒業生から、医療機関での仕事、長く勤める上で必要なことを在校生に知らせたいという思いがある。</p> <p><input type="checkbox"/>そのようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設や医療機関が求める人材も変わりつつある中での点検、見直しを行っている。キャリアサポートプログラムを含む「キャリアデザイン」という科目では、就職活動だけにとらわれず、社会性や人間性、自分なりの強み、弱みを確認して、将来どういったところで活躍するかを考える内容になっている。キャリアサポートプログラムの内容と教材を一部改定する。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>□キャリアサポートプログラムの内容について検討を進めている、内容はプログラム全体を見直すものとなっているとあるが、どういう方向で見直すのか。</p> <p>□キャリア教育というと就職支援に直結したものと人間性の教育があると思うが、いわゆるキャリア教育の部分を充実させていくことも非常に大事だと思う。特に人間関係形成力という面で、適応力のなさや人の意見を受け入れられない傾向が最近の若い人たちにあるような気がするので、2年間かけて教育ができればよいと思う。</p> | <p>□売り手市場が続いているので、就職活動をすれば内定は獲得できると思うが、内定先が、学生の本意か不本意かはっきりしていないので、在学中に将来設計をじっくり考えてもらいたいという思いがある。</p> <p>□ご意見として伺った。</p> |
|--|---|

成績評価・単位認定等

| | |
|--|---|
| <p>□研究発表について、医療マネジメント科の記述に、次年度については実施するとあるが、具体的に何かあるか。</p> | <p>□今まで医療秘書学会、学術大会等において発表し賞を受けることがあったが、学生主体ではなかったため、今年度は実施しなかった。次年度については今後具体的に検討する。</p> |
|--|---|

資格・免許の取得率

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|---|---|
| <p>□医療秘書科の秘書技能検定準1級合格者が増加した理由は何かあるか。</p> <p>□介護福祉科の留学生に、通常授業や国家試験対策で補習授業を設ける予定はあるか。</p> <p>□手をかけなければならない状況ではないかと思う。</p> <p>□共通基礎学力テストはどのように役立っているか。</p> | <p>□2年次後期の選択科目に「医療秘書実務Ⅱ」を設けたことが大きく影響している。</p> <p>□日本語の指導について、週に1回の予定で大学院の日本語の先生にご協力をいただく。</p> <p>□今年度は、入学後に対策を考えながら実施していきたい。</p> <p>□高校時代の学力と専門学校で求められる学力がリンクするかどうかというのが確認のポイントになっている。当然ながら共通基礎学力テストの点数が高いと検定試験の合格率が高い。将来的には本校の教育内容との関連における高校の偏差値が出せれば、高校に戦略的なアプローチができるのではないかと期待している。</p> |

学生募集活動

| 委員からの質問・意見 | 質問・意見への回答 |
|------------|-----------|
|------------|-----------|

| | |
|---|---|
| <p>□留学生の会場ガイダンスはどのようなところで行われるのか。</p> <p>□オープンキャンパス2回以上の参加者は出願率が高いとあるがどういうことか。</p> | <p>□代理店が主催するガイダンスが会場形式で行われる。本校8階スペースをお貸しすることもある。</p> <p>□看護科と字幕制作・速記者養成科は別だが、オープンキャンパスに2回参加していただくことによって、入学後のミスマッチを防ぐという目的もあり、検定料を免除している。複数回の参加により、一般的に出願率は上がる。2回来校の仕組みづくりも含めて取り組んでいる。</p> |
|---|---|

以上